

不気味な暗闇が
貴方を死の恐怖に陥し入れる

恐るべき残酷さで襲いかかる
『THE DARK』は
人か 魔物か……

全米公開と同時に異常な戦慄が走り抜けた
最新恐怖映画の傑作!

アメリカ映画 カラー作品

THE DARK

ザ・ダーク

ウィリアム・ディベイン ■ キャシー・リー・クロスビー ■ リチャード・ジャツケル ■ キーナン・ウイン

製作ディック・クラーク / エドワード・L・モントロ ■ 監督ジョン・バッド・カlds ■ 脚本スタンフォード・ウィットモア ■ 特殊効果ロビー・ノット

製作フィルム・ベンチャー・インターナショナル ● 松竹・富士映画共同配給

The DARK

ザ・ダーク



カラー作品／アメリカ映画
製作フィルム・ベンチャー・インターナショナル
1978年度作品／上映時間1時間30分
松竹・富士映画共同配給

(スタッフ)
製作.....ディック・クラーク
 エドワード・モントロ
監督.....ジョン・バッド・カルドス
脚本.....スタンフォード・ウィットモア
音楽.....ロジャー・ケラウエイ
撮影.....ジョン・モリル
 ロビー・ノット

(キャスト)
ロイ・ワーナー.....ウィリアム・ディベイン
ゾーイ・オウエンズ.....キャシー・リー・クロスビー
ムーニー刑事.....リチャード・ジャッケル
シャーマン.....キーナン・ウィン

(STAFF)
Producers..... DICK CLARK
 EDWARD L. MONTORO
Director..... JOHN "BUD" CARDOS
Written by..... STANFORD WHITMORE
Music by..... ROGER KELLAWAY
Director of Photography..... JOHN MORRILL
Special Effects..... ROBBY KNOTT

(CAST)
Roy Warner..... WILLIAM DEVANE
Zoy Owens..... CATHY LEE CROSBY
Detective Mooney..... RICHARD JAECKEL
Sherman Moss..... KEENAN WYNN

全米各地《ニューヨーク》で、戦慄の大ヒット!!

'79年全米公開と共に、ニューヨークでは「チャンプ」の45万ドル（68館）の興収に対し、「ザ・ダーク」は60館で34万ドル（5月23日バラエティ誌より）と第2位。シカゴでも26万ドルの「エイリアン」に肉迫する、24万8千ドル（6月5日バラエティ誌より）を稼動する大ヒットを記録!

恐怖映画の原点——それが暗闇<ザ・ダーク>だ!
「サスベリア」「ザ・ショック」など、イタリア製残酷、恐怖映画に対し、豊富な製作費と世界最高水準のスタッフで作られた、最新恐怖映画の傑作、それが「ザ・ダーク」だ!
“恐怖の原点”とも言われる暗闇<THE DARK>。そこには肺臓をえぐる戦慄が、おどろおどろしい残酷さを持ってあなたに迫る。コンクリートの路上に足音が響く時、次々に殺戮が起る——正体不明の魔手に若い娘が凌辱され、警察官の首が飛ぶ、守衛が、そしてスチュワーデスが惨殺される——悲鳴さえ凍りつく異様な<暗闇の恐怖体験>が、あなたを待っている。

“ギネス・ブック”をも書き替えた!? 恐怖映画の決定版!
金と時間を費すアメリカ映画の真骨頂が、世界の最高記録のみを発行している、あの“ギネス・ブック”をも書き替えた!? 凝りに凝った撮影のために、クランク・イン早々40日間で、ロケ地がなんと70箇所にあぶという。又、全体の86%が夜間シーンという（時間にして約77分=2,109フィート）、映画史上、奇抜な新記録を書き替え、ハリウッド映画の面目躍如といったところ。

“恐怖こそ映画の真髄だ”と豪語する。最優秀スタッフが集結した!
“生涯最大の楽しみは、観客を恐怖のどん底に落とし入れる事だ”、と自ら恐怖映画一筋に打ちこむ製作に「グリズリー」のエドワード・L・モントロとディック・クラーク。監督は映画歴25年のベテランで、「ブレイキング・ポイント」（第二班監督）のジョン・バッド・カルドス。音楽は「スター誕生」のアンダー・スコアを書き、アカデミー賞にノミネートされたロジャー・ケラウエイ。「ザ・ダーク」を全米で大ヒットさせた影の功労者、特殊効果のロビー・ノット、スタント監修のポビー・クラークと最高のスタッフだ。

“血と肉のディメンション(次元)”それが<暗闇>だ!
主演に2度と同じキャラクターを演じない「ローリング・サンダー」のウィリアム・ディベイン。若く美しいTVレポーター役で、本格的主演に取り組むビング・クロスビーの姪、キャシー・リー・クロスビー。共演にカー・アクション映画には必ず出演する「新バニシング IN60」スピード・トラップ」のリチャード・ジャッケル。「オルカ」など重厚な演技に定評のキーナン・ウィンと異色キャストが組まれた。主役のディベインは言う、恐怖映画では、天才的な製作者とは非仕事をしたかったし、怖しさに徹した脚本の「血と肉のディメンション」に興味津々だった”

第一の犠牲者は、バイオレンス作家の一人娘だった!?
不気味な暗闇が、ロスの街を包んでゆく——映画館から出て来た若い娘が、ひとり家路に向う。人通りが絶え、彼女の足音だけがコンクリートの上に響く。背後の異様な気配に、彼女の足が早まる。胸の動悸が高なり彼女は走り出す。暗闇が彼女を押し包む、突然引き裂くような悲鳴が聞えた……翌朝、彼女は無残な姿で発見された……死体の身元は、今流行のバイオレンス作家ロイ・ワーナー（ウィリアム・ディベイン）の一人娘だった。だがロス警察の担当刑事ムーニー（リチャード・ジャッケル）は、変質者の物盗りぐらいにしか見てない。頭に来たロイは、独自の犯人捜査に乗り出す。
翌晩、第二の犯罪が発生。黒人の守衛が、倉庫の中で肉塊を飛び散らせながら惨殺された。
一方この猟奇殺人事件に興味を持つ女がいた。一人は美人でT Vニュース・キャスターとして活躍中のゾーイ（キャシー・リー・クロスビー）。彼女は強引に局長のシャーマン（キーナン・ウィン）をときふせ調査を始めていた。もう一人はデ・レンジーと名の異なる異様な霊媒師。彼女は警察に出かけ、ムーニーに死の予言をするが、彼は相手にもしない。彼女は捨てゼリフを残し去って行った。
その頃、ロイはゾーイの取材を受け、そこで彼女からデ・レンジーの言葉や、デ・レンジーの家へ急いだ。彼女の部屋に入ると、ふき荒された異様な光景に立ちすくむ。奇妙にねじ曲ったデ・レンジーの口から、“ランディという若い俳優を探さない”と。

警察が遂に貴重な事実を掴んだ……被害者の爪に付着した加害者の皮膚、それは白色や褐色でなく灰色をしていた……それにあの超人ハルクのように、犯人は超人的な力の持ち主だ。漠然とだが、犯人の手がかりが掴めたその矢先、第三の犠牲者が発見された。それも首をもぎとられた警察官だ。警察のメンツは丸つぶれ。

荒い息づかい、追いつめる光る目、若いスチュワーデスの前に犯人が姿を現わした——警察をあざ笑うかのように、遂に第4の犠牲者が出た。現場に立ちすくむムーニー達。その横をロイとゾーイを乗せた真紅のスティングレーが走り抜けた。刑事の感が彼を車に飛び乗らせた。やっとの思いでランディを見つけ、彼の車を追う二人。赤信号を無視し、ロス市内を突っ走る三台の車が、廃虚の修道院に突っ込む。逃げこむランディ。突然、壁をぶち壊して暗闇に犯人が現われた。巨体を引きずるように襲いかかる犯人に彼女が掴った——

この映画を見たら最後——もう<暗闇>をひとり歩きできない!